京都府教育委員会教育長賞

相談することの大切さ

木津川市立木津川台小学校　六年　赤山（あかやま）　和志（かずし）

　ぼくは、六年生の春休みに、スマートフォンをもらいました。スマートフォンで、友達とゲームをしたり、動画を見たりするのがとても楽しくて、長い時間使っていました。そして、無料でできないゲームや欲しいアイテムがあった時に、両親に内緒で、課金をしてしまいました。

　無断で課金をして課金をすることは良くないことだと知っていましたが、少しぐらいなら、ばれなければいいと思っていました。

　ある日、両親に課金をしていたことが知られてしまいました。母は、怒っているというより、悲しんでいました。ぼくは、お年玉からお金を払って、返すと言いましたが、父はお金を払えばすむという問題ではないと言っていました。

　自分はとんでもないことをしたと思い、罪悪感にかられました。これからは、絶対にそんなことをしないと、心に誓いました。

　その後、今後どうしたらいいかということを、母と話しました。母は、課金がだめなのではなく、無断でしてしまったことが良くなかったと言っていて、「相談」をして欲しかったと言っていました。「相談」をすることで、欲しいものがあっても、どうしたらよいか話し合って解決することができると教えてくれました。

　相談をしなかったのは、最初からだめだと言われると決めつけていたからです。でも、自分の気持ちは、きちんと言葉にして伝えないと、相手には伝わらないと気づきました。それからは、困ったことがあったら、相手には両親や学校の先生など信頼できる人に相談しようと思いました。

　ぼくは、この経験から、犯罪や非行をおかした人のことについて考えました。犯罪や非行は決して許されることではありません。しかし、ぼくのように、相談するということを知っておくと、相手を傷つけたり、周りに迷惑をかけたりするのではない方法で、問題を解決できると思いました。

　ぼくの母は、昔、ＢＢＳ運動をしていました。ＢＢＳ運動は、非行を行った人の立ち直りを支える学生ボランティアのことです。母は、非行を行う人は、コミュニケーションをとるのが苦手だったり、自分の困り事をうまく人に伝えることが苦手な人が多いと教えてくれました。

　ＢＢＳ運動では、年の近い人が非行を行った人の話し相手になるので、悩みを話しやすいそうです。自分の話をしっかり聞いてくれる人がいることで、罪を反省し、立ち直そうとする気持ちがわいてくれると思います。

　ぼくは、課金の経験を通して、犯罪や非行がどのような気持ちから起きるかを知ることができました。ぼくが今、できることとして非行防止のポスターを作成したり、呼びかけたりすることも大切だけど、悩んでいる友達の話をよく聞いたりしてあげたいと思います。また、心についても勉強をして、生活にいかしていきたいと思いました。

京都府教育委員会教育長賞

もう二度と自分を捨てないで

相楽東部広域連合立笠置中学校　一年　ナディルアリ・ニダ・アリ

「犯罪」この言葉を私が日本で初めて知った時、当時の日本語指導の先生が、まだ日本語が乏しい私にも分かるように教えてくれた意味は「薬物、暴力、殺人、人の物やお金を盗ったり、人が嫌がる悪いことをしたりすること」でした。それを聞き、私は「怖い」と思いました。それから、私は「犯罪」という言葉をテレビで何度か目にしました。画面に流れてくる言葉や聞こえてくる言葉を全て理解することはできなかったです。しかし、そんな私でも、恐ろしいという雰囲気が伝わってくるものばかりで、「犯罪は怖い」という印象が変わることはありませんでした。

　ある日、日本語指導の先生に用があったため、職員室に向かうと、その先生がじっとあるポスターを見ていました。気になった私は、授業の時に、

「あれは何のポスターですか。」

と先生に聞きました。すると、先生は

「あれは社会を明るくする運動のポスターで犯罪や非行を防止したり、立ち直りを支援するためのポスターだよ。」

と教えてくれました。しかし、その時は、なぜ、罪を犯すような悪い人達をわざわざ支援するのか疑問に思いました。そこで、私はそのことを質問すると、先生はたくさん話をしてくれましたが、その中で、特に覚えているのは、犯罪や非行に走ってしまう人達は、加害者になる前に被害者の立場だった人がいるという話です。その時私が初めて知ったことは、家族がいない、帰る家がない、働く場所がない、貧困で明日の食べ物に困っていたり、親が犯罪者だったり、様々な理由で寂しさや辛さを抱えている人達が、罪を犯した人達の中にいるということでした。そして、先生には、生い立ちに苦労があり、犯罪を犯してしまった友達が実際にいるそうです。先生はその友達がもう二度と過ちを犯すことのないように、手紙のやり取りをして、その友達の支援をしていると話をしてくれました。しかし、私は、生いたちに苦労があったとしても、罪を犯してしまった人と先生が、なぜ今でも友達でいるのか理解できませんでした。私なら友達を辞めてしまうかもしれないと思ったからです。しかし、先生は、

「私は、その友達を尊敬している。」

と言っていました。また、その友達と一緒にレストランに行った時、帰り際に必ず

「ありがとうございました。美味しかったです。これからも頑張ってくださいね。」

とレストランの人に言い、頭を下げて出ていくそうです。私はそれを聞いてとても驚きました。罪を犯した人は根っからの極悪人だと勝手に思っていました。許されない、悪いことをしてしまったという事実はあるけど、優しく温かい一面を持ち合わせている人も中にはいることを知り、私の「犯罪」に対する考えや思いを改めることになりました。罪を犯してしまった人も、素敵な一面を持っているから、そんな自分を台無しにして欲しくない。もう一度人生をやり直せるように寄り添いたいという先生の思いに、とても共感することができました。

　先生はその友達がきっかけである目標ができたそうです。それは、自分が得意な音楽で慰問コンサートをすることです。先生はそのために書いた歌詞を見せてくれました。私はその歌詞を見て、とても感動しました。自分の近くに、犯罪を犯してしまった友達のために、こんなにも優しく手を差し伸べることができる人がいることをとても誇りに思います。そして、先生のこの活動を心から応援したいと思いました。

私には、日本に慣れなかった頃からお世話になった小学校の先生がいます。そして、中学校には、いつでも丁寧に質問に答えてくれて、私が分かるようにあの手この手で勉強の支援をしてくれる先生がいます。先生は、私が間違ったことをしてしまった時には、きちんと叱ってくれます。そして、家に帰ると、

「おかえり」

と言ってくれる家族がいます。

しかし、犯罪や非行をしてしまう人達にはそのような存在のいない人が多いのかもしれません。私は今のように恵まれた環境ではなく、自分を支えてくれる人がいなかったら、今と同じように生きていける自信はありません。だから「罪を犯してしまった人だから」という理由で、その人を見捨てることはやめようと思います。どんなに悪いことをしてしまったとしても、その人が本気で人生をやり直したいと思っているのならば、私は笑顔で手を差し伸べていきます。先生の歌詞から言葉を借りるとすれば、「もう二度と自分を捨てないで」という気持ちを持ちながら、手を差し伸べられる人になりたい。

そして、私はこう願う

「一人でも多くの人の心が救われますように。」